

平成 17 年度 大学院入学者選抜試験問題 (第 2 次)

専門科目

経済理論・経営理論分野

以下の問 1 と問 2 から 1 問を選んで解答しなさい。

問 1 (経済理論) 以下の (1)、(2)、(3) の問から 2 つを選んで答えなさい。

(1) 次の(ア)、(イ)、(ウ)の命題の中で、いかなる経済学説をもってしても正しいと言いきれないものを 1 つ選び、それが正しくない理由を説明しなさい。また、根拠づける経済学説があると思う命題を 1 つ選び、その経済学説について説明しなさい。

(ア) 2000 円の上鰻丼は 1000 円の並鰻丼より 2 倍おいしい。

(イ) 1 台 10 万円の DVD レコーダーを作るのは、1 台 5 万円のテレビを作るのより 2 倍大変である。

(ウ) 1000 円の焼肉定食と 500 円のラーメンを前にしてどちらにも決めかねている人が 1000 円の焼肉定食から得る効用は、500 円のラーメンから得る効用の 2 倍である。

(2) 次の命題の誤りを指摘しなさい。

「借金の返済額が大きくなり苦しくなった家計は、貯蓄をする余裕がなくなるので、貯蓄性向が低下する。貯蓄性向の低下は投資乗数の上昇を意味するから、経済全体として家計の借金返済が大きくなればなるほど、公共投資の経済刺激効果は高まる。」という命題。

(3) ある製品の供給量を q [個/月]、その需要価格を p [円] とするとき、

$$p = 10,000 - \frac{3}{10,000,000}q^2$$

で表される需要曲線に直面している不完全競争企業の費用 c [円] が

$$c = 100,000,000 + 1000q$$

である(つまり固定費 1 億円、限界費用一定で 1000 円/個である)とき、この企業の利潤を最大にする生産量は月何個か。またその時の利潤は何円か。

問2 (経営理論) 企業は自らが行う事業についてどのようにとらえ、またどのようにして事業発展に結びつけてゆくのであろうか。

たとえば、和歌山市に島精機製作所というニットの横編み機をつくる優良会社がある。年商 459 億円 (2004 年 3 月期単体) で、売上高経常利益率は 21.1% という高い値を示し、主力機械の世界シェアは 6 割以上という圧倒的なシェアを誇る。つまり、地方にありながら、世界的に活躍する会社といえる。ところで、この会社は自らを名乗るのにニット横編みの繊維機械製造会社とは規定せず、総合メカトロニクス企業を標榜している。

そこで、以下の関連する 2 つの課題に回答せよ。すなわち、このような事業の規定の仕方には、(1) 企業にとってどのようなメリットがあると考えられるか、自らの考えを述べよ。また、これに関連してより一般的に企業が自らの事業を決める際には、(2) 今日の情勢からして、どのようなことが主な検討のポイントになるか。あるいは、どのような事業決めが企業を成功に導くかについて、自らの知るところや考えるところを述べよ。